

奨励賞（神奈川県立青少年センター館長賞）

かわいそうではない

横浜山手中華学校中学部 2年 山田 玲安 やまだ れあ

私の妹は発達障害です。妹がまだ赤ちゃんの時、母が寝返りを打つのが遅いと心配して病院で診てもらったのがきっかけでした。その結果、妹は発達障害だと分かったそうです。

ただ、幼い頃の私は特に障害とかと意識していなかつたと思います。それを意識し始めたのは私と妹が小学校に上がった時です。少しずつですが、妹は他の子と少し違うのかなと思うようになりました。例えば妹が小さい子みたいに騒ぐと変な目で見る人がいます。妹の話をすると同情した目をされます。幼い私にはなぜか分かりませんでした。そんなある日、私は先生に「妹のことを知らないふりしていいよ」と言われました。なぜそう言われたのか当時の私は分からなかったです。学校でも姉として妹を助けていたのが駄目だったのかと考えていました。今になってそれは先生なりの気遣いだったのではないかと思います。私が妹のことで孤立してしまうことを恐れていたのかもしれません。それでも私はやっぱり先生の言っていることが理解できません。なぜ障害者だからとそう差別しなくてはならないのでしょうか。

しかし時々思うこともあります。もし妹が何の障害もなく、普通の子だったらと。そうしたら私が一人で母の家事を手伝うこともなくなるし、何かあった時に相談できる相手もいるのになと思って、妹のことを妬んだ時もあります。そう思っていましたが妹の行動をよく見ていくうちに気づいたのです。妹も母の家事を一緒に手伝おうとしていることに。ただやり方が分からなくて手伝っていないように見えただけということに。本当は妹も妹なりにやろうとしていたのです。そのことに気づいた私は私がやり方を教えればいいのだと分かりました。分からなかつたら教えてあげる。とてもシンプルな考えです。それができてから私はより妹のことを理解したいと思えるようになりました。

よく妹の話をすると「かわいそうだね」と言われます。そう言われた時に私はよく思います。かわいそうって何だろう。なぜ私の妹はかわいそだと言われなくてはならないのだろうか。私の妹はかわいそなのか。

世の中にはたくさんの人がいます。みんなそれぞれ違う人です。少し背が低い人や、人見知りをする人もいます。私はそれを個性だと思っています。みんなそれぞれ

異なった個性を持っているのになぜかわいそうな人と普通の人に分けようとするのでしょうか。私は時に笑ったり、泣いたりもする妹が一人の女の子としてとても好きです。妹の性格に救われる時もあるし、逆に憎らしく思う時もあります。けれど私はそのことがかわいそうと結びつくとは思いません。

今でも多くの人が「障害者」と言う言葉を聞くだけで「かわいそう」と言います。言わない人もいるのかもしれません。でも真っ先にその言葉が思い浮かぶはずです。しかし私はそんな人達が「かわいそう」ではなく、「これも個性の一つなんだね」と思えるようになってほしいです。私は一人の中学生として、妹の姉として言いたいです。障害者とか関係なくその人自身を受け入れてくれる、そんなありのままの姿の自分でいられるような社会に私は変えたいです。「かわいそう」と障害者と一線をひくようなことをなくしたいです。妹は妹、その人は決してかわいそではありません。一人一人の改善からそういう社会になっていけるのではないかと私は思います。私は一日でも早くそういう社会になってほしいです。障害者だから「かわいそう」とかと言われないような社会に、それも個性の一つだと受け入れてもらえるような社会に。かつての先生の言葉が「知らないふりしていい」というのじゃなくなるような社会に一日でも早くなることを願っています。